

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	社会と象徴体系		
英文授業科目名	Society and Symbolic System		
開講年度	2004年度	開講年次	3, 4年次
開講学期	6, 8(5, 7)学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-テーマ別セミナー		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	南里 浩子(学内連絡教官 佐藤 賢一)		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ

【主題および達成目標】
<p>このセミナーは、文化人類学を受講し興味をもった学生に、その応用編として具体的な対象、テーマでさらに関心を深め勉強していくという目的をもっている。今期のテーマは、文化人類学のフィールドワークについてとり上げる予定である。現在、私はイランの農村でのフィールドワークを進めている。現地があまりに遠いので一緒に出かけるということは出来ないが、同村を1960年代、70年代、80年代と継続調査を行った大野盛雄氏の民族誌『イラン農民25年のドラマ』を読みながら、また私自身が行っているフィールドワークの体験を交えながら、フィールドワークという調査技法について、またそれがもっている問題性などについて考えていきたい。できれば、自分で何らかのフィールドワークを行って情報を集めレポートを書いてみるということにも挑戦していただきたい。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
文化人類学AもしくはB

【教科書等】
教科書：大野盛雄「イラン農民25年のドラマ」(NHKブックス) 参考書：佐藤郁哉「フィールドワークの技法」(新曜社)

【授業内容とその進め方】

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

必須項目。

注1：評価方法は、学生が自分の成績評価を確認できるように、(%による表示は必須ではありませんが)極力具体的に示してください。

注2：成績評価の公正さを期するためにも、必ず評価基準を記述してください。評価基準とは、少なくとも単位取得に必要なレベル(可と不可の区別を示す基準)を意味します。より上位のレベルの基準は、必要ならば記述してください。

注3：同一科目を複数の教官が担当する場合、不公平が生じないように、この項目の書き方については、事前に担当者間で十分にご相談の上、記入してください。

(例)

(a) 評価方法：

中間試験・期末試験および演習・宿題の結果を、次のように総合評価する。

成績評価	演習・宿題	20%
	中間試験	30%
	期末試験	50%

(b) 評価基準：

以下の到達レベルをもって最低達成基準とする。(合否の境を最低達成基準としてできるだけ明瞭に記載する。)

例1：・・・の意味をほぼ理解していること。・・・の計算ができること。・・・の法則を簡単な問題に適用できること。

例2：すべてのレポートが受理されていること。

【オフィスアワー：授業相談】

必須項目。

授業内容の理解促進等のために、授業時間外で、学生の質問・相談に応じる時間帯等について記述してください。

(例1) 適宜相談に応じるが、電話などで事前にアポイントを取ること。

(例2) 水曜日 12:00~14:00

(例3) 特に設けない。質問等は電子メールで受け付ける。

【学生へのメッセージ】

(例)

「もの作り」にたずさわる人にとっては勿論のこと、たとえハードウェアを扱わなくてもシステムの動作原理を理解し、発展させるためには、電子回路の基本を十分理解している必要がある。授業中に一つずつしっかり理解していけば、難しい内容ではない。

電気通信大学 平成16年度シラバス

【その他】